

令和6年8月26日

人間国宝・神農巖氏の陶磁器2点を市民公開＝9月1日～

市は9月1日から、あやべ日東精工・アリーナ（市民センター・西町三丁目）で、綾部市出身の陶芸家、神農巖（しののう・いわお）氏の陶芸作品を展示する。

神農氏は本年に重要無形文化財保持者（人間国宝）に認定。これを記念して、市が平成23年10月に寄贈を受け所蔵している「白磁堆磁線文鉢（はくじついじせんもんばち）」と「青白磁堆磁線文壺（せいはいくじついじせんもんつぼ）」の2点を一般公開する。

神農氏のプロフィールなど詳しくは別紙。

記

1 日 程 9月1日（日）～30日（月）開館時間中

2 場 所 あやべ日東精工・アリーナ（市民センター・西町三丁目）



（参考：平成23年の展示の様子）

・神農氏は、小学校3年生から高校卒業までの約10年間を綾部市で過ごされました。

・小学生のころは藤山（寺山）や由良川、大本神苑の森など、豊かな自然の中で遊んだ経験が感性を育み、作品制作の礎になっていると話します。

・陶芸をはじめめるきっかけは、大学入学前の一人旅で、近畿大学の陶芸部員に偶然出会ったこと。入部後すぐに陶芸の魅力に取りつかれ、20歳のときに見た青磁作品に感銘を受け、この道で生きていきたいと強く思ったそうです。

・今後は技術の継承や後進の育成にも尽力したい、自分の青磁を中国大陆や朝鮮半島に発信し世界の人とも交流できたら、と語っていました。

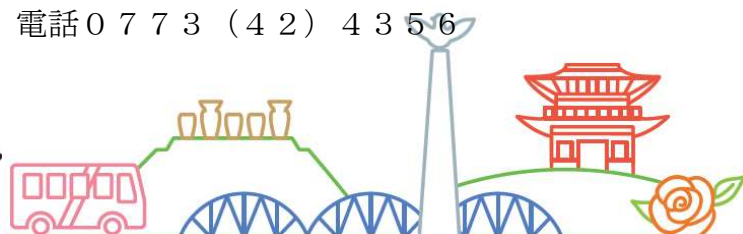
（8月7日 秘書広報課広報・広聴担当取材）

<問い合わせ>

文化・スポーツ振興課 課長 村上哲也 電話0773（42）4356

一人ひとりの幸せをみんなで紡いで
実現できるまち…

綾部



【別紙】

神農巖氏プロフィール

日本工芸会正会員 昭和32年生 大津市在住

《経歴》

- 昭和51年 綾部高校卒業
- 昭和55年 近畿大学卒業
- 昭和56年 京都市工業試験場（現 京都市産業技術研究所）窯業本科修了
- 昭和57年 京都府立陶工職業訓練校（現 京都府立陶工高等技術専門校）成形科卒業
- 昭和58年 京都市工業試験場窯業専攻科修了
京都市内の製陶所にて修業
- 昭和62年 大津市にて築窯し、独立
- 平成6年 第41回日本伝統工芸展初入選
- 平成15年 社団法人日本工芸会（現 公益財団法人日本工芸会）正会員
- 平成21年 第56回日本伝統工芸展朝日新聞社賞（優秀賞） 作品「堆磁鉢」
- 平成22年 京都市立芸術大学美術学部工芸科非常勤講師（平成25年まで）
- 平成23年 第58回日本伝統工芸展日本工芸会会長賞（優秀賞）
作品「堆磁線文鉢」
- 平成24年 紫綬褒章
第59回日本伝統工芸展第1次鑑査委員（以降、計4回歴任）
公益社団法人日本工芸会理事（令和元年まで）
大津市文化特別賞
- 平成25年 滋賀県指定無形文化財「青磁」保持者指定
- 平成27年 2014年度日本陶磁協会賞
- 平成28年 滋賀県文化賞
- 令和2年 公益社団法人日本工芸会常任理事（令和6年まで）
「神農巖展—堆磁 生命の根源、そして祈り」展（兵庫陶芸美術館）
- 令和4年 第69回日本伝統工芸展第2次鑑査委員（以降、計2回歴任）
- 令和6年 重要無形文化財「青磁」保持者認定

《パブリックコレクション》

宮内庁、文部科学省、外務省国際交流基金、国立工芸館、兵庫陶芸美術館、
茨城県陶芸美術館、滋賀県立陶芸の森、MIHO MUSEUM、綾部市、大津市、
パラタミュージアム、菊池寛実智美術館、マイヤーガーデン、薬師寺、
緑ヶ丘美術館